



## 本日はよくお参り下さいました

六月です。梅雨入り間近となりました。皆様いかがお過ごしですか？気象庁で発表された平年並の梅雨入りは六月八日で、去年は六月十八日でした。今年は何日に梅雨がはじまるのでしょうか。さて先日大学時代の同期(男性)の結婚式に出席してきました。神主の卵のサークルに所属していた仲間、埼玉出身、大学卒業後はずっと東京の大宮八幡宮の神職として奉職していました。お相手の方は福島市内にある神社の宮司さんのご長女で後を継ぐ立場にある方でした。福島といえばまだまだ復興まなならない土地ではありますが、婿養子に入って福島の地に根をおろしご家族とともに神社をお守りしていくとのことでした。その心意気には胸が熱くなり、心から応援したくなりました。高円宮典子様のご婚約内定会見も記憶に新しい所で、秋に出雲大社で行われる結婚式が今から楽しみです。結婚というのは周りをも幸せにしていく気が致します。今月も皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。(権禰宜 道子)



## 6月

- 1日月 首 祭 月の初めの恒例祭祀。小祭。
- 15日月 次 祭 月の半ばの恒例祭祀。小祭。
- 父 の 日 日頃の父親の苦勞を勞り、父の恩に感謝する日。
- 21日 夏 至 梅雨の真っ盛り。しとしと長雨が續く。昼が最も短い日。

## 30日 夏越の大祓

多くの神社では、6月30日と12月31日に大祓(おおはらえ)という神事が行われています。大祓は一年を二回に分け、半年の間に知らず知らずのうちに犯した罪、積もり積もった心身のけがれ、いっさいの災いを消滅し、清浄な本来の姿を取り戻すための祭祀です。大祓は記紀神話にも見られる伊弉那岐命の禊祓を起源とし、宮中においても古くから行われてきました。国中の罪穢れを祓い清め、厄災のない社会を祈念して行われたのです。そうした伝統を受けて、大祓は多くの神社の年中行事として恒例化されています。参考文献『神社のいろは』監修 神社本庁



千歳の命 延ぶと いふなり

水無月の夏越の祓する人は

## 天神さまの豆知識

～出雲国造とは～

五月の末に発表された高円宮典子様のご婚約会見。ご覧になった方も多いと思います。女性皇族のご婚約内定ということで、世間が明るい話題に包まれました。さて、そのお相手の千家国麿さんは、出雲大社の神職で、青年神職として研修で一緒にさせていただいたこともある、一般の方です。ただ、千家さんが特別なところは、神話の時代から八十四代続く神職の家柄であるところ。千家さんが会見で「私どもの家の初代が、皇祖・天照大神の次男と伝えられています。二〇〇〇年を超える時を経て、今こうして今日という日を迎えたということに深いご縁を感じています」とおっしゃいましたが、もうすこし詳しい説明を加えさせていただきます。大国主の大神が、国づくりの大業を完成したあと、天照大神に国を譲られ、幽世(かくりよ)という目に見えない世界をお治めになります。天照大神は、私心ののない「国譲り」にいたく感激され、大国主大神のために天の日隅宮(あめのひすみのみや)をおつくりになり、第二子天穂日命(あめのほひのみこと)を大国主大神に任せさせられました。この天穂日隅宮が今の出雲大社であり、天穂日命の子孫は代々出雲国造(いずもこくそう)または、いずものくにのみやつこと称し、今日まで八十四代祭祀を伝えてきました。

千家国造、その出雲国造なので、神話を知るとますますお二人のお家柄の背景にあるご縁の尊さを感ぜられる気が致します。参考文献『遷宮のつぼ』(株)扶桑社発行 監修 神社本庁

高さ48mあったとされる古代の出雲大社の復元想定図(側面)。上まで登る橋の長さは100m以上あったとされている。



## 日本神話の世界 全十一回

### 第三回 「伊弉那美之死」

伊弉那岐命、伊弉那美命は、国生みを終えるころに神々を生みました。大事をなす神、家の土台の神、戸の神など家屋の神々、海の神、水戸(みなと)の神、風の神、木の神、山の神、野の神、船の神、食物の神。そして火の神を生んだとき、伊弉那美命は火傷に苦しみながら、嘔吐物から鉾山の神、糞から粘土の神、尿から水の神や物を生成する生産の神を生みました。生産の神の子として、食物を(かき)とる豊受毘売の神が生まれました。(この神は伊勢神宮外宮の御祭神です。そして伊弉那美命は火の神を産んだのが原因で(こ)に神避られ(こ)くなられました。伊弉那岐命は、「(こ)おしい我が妻を火の神との誕生(こ)引き換え(こ)して(こ)しました」と嘆き悲しみ、その涙からも神が生まれます。そして伊弉那美命を葬った後、腰に帯びた十拳剣(こ)か(こ)の(こ)ぎ(こ)を抜き、火の神の首を斬(こ)つきました。すると(こ)剣(こ)に(こ)いた血や火の神の遺体から次々と神が生まれます。それでもなお伊弉那岐命は、「(こ)き妻 伊弉那美命(こ)ひと目(こ)会(こ)いたい」と思い、黄泉の国に追いかけて(こ)い(こ)のです。血液は生命の根源、その血液から多くの神々が生まれます。中でも力の強い雷神である建御雷之男神(たけみかづちのおのかみ)や火の神を斬(こ)つた剣である天之尾羽張(あめのおははり)は後に(こ)も登場して活躍(こ)することになります。